



三菱重工の航空・宇宙事業について

最近のトピックスを中心に防衛・宇宙セグメントについて紹介させていただきます。

防衛・宇宙セグメントでは、その名の通り、防衛事業と宇宙事業を所掌しています。

防衛事業では、戦闘機、ヘリコプター、ミサイル、魚雷、艦艇、潜水艦、戦闘車両を製造しています。最終組立の場所は、小牧、長崎、神戸、相模原、です。一方、宇宙事業は、H-IIA/B等の大型ロケット及び国際宇宙ステーション (ISS) 日本実験棟「きぼう」(JEM)、こうのとり (HTV) といった有人システムを中心に活動しています。場所は、名古屋と小牧・飛鳥を中心として、ロケットの射場がある種子島、エンジンの燃焼試験場として秋田県大館 (田代) などに展開しています。

防衛事業の航空関係製品では、①戦闘機：F-2、F-15の定期修理、F-35A新製の最終組立・チェックアウト並びに整備、②ヘリコプター：SH/UH-60の新製並びに定期修理、をベース・ロードとして、次期戦闘機の研究・開発、SH-60K改の開発に取り組んでいます。次期戦闘機については、昨年10月30日に防衛省と弊社の間で契約を締結しました。12月4日には弊社小牧南工場において防衛省並びに関連各社様にご参加頂きエンジニアリング・チームFXET (エフゼット：F-X Engineering Team) の発足式を執り行い、我が国の総力を挙げた体制がF-2からおよそ30年ぶりに立ち上がりました。我が国の国情・ニーズに適した能力、拡張性、改修の自由度に加えコストを意識した開発が求められています。これまで以上にソフトウェアが重要な役割を担う機体になるでしょうし、NCW (Network Centric Warfare) の

中核、無人機との連携、さらには将来登場する新しいウエポン・搭載機器への対応が期待されています。

宇宙事業では、去年は記念すべき出来事が2つありました。1つは、7月20日のアラブ首長国連邦 (UAE) の火星探査機HOPEの打上です。UAEの建国50周年記念行事のメイン・イベントの一つでしたので打上成功に関係者一同大変安堵致しました。2つ目は5月21日のH-IIB最終号機 (9号機) の打上と8月20日のHTV最終号機 (9号機) の大気圏突入です。2009年9月11日の初号機打上から11年、100%成功で初代HTVはその歴史を閉じました。今後のISSへの物資輸送は現在開発中のHTV-Xに引き継がれます。また、現在弊社が打上サービスを提供しているH-IIAも2025年頃までには引退し現在開発中のH3に引き継がれる計画です。他方、あまり知られていませんが弊社では衛星の搭載機器やサブシステム等のフライト実績も積み重ねています。古くは推進系 (タンク、スラスタ等)、新しくは (といっても20年以上前から) コンピュータ、信号処理装置、センサ等の電子機器を提供しています。最近では小型衛星や衛星データ利用にも取り組んでいます。“ニュー・スペース”とも呼ばれる、宇宙分野で新しく事業を立ち上げている企業の方々と一緒に、又、時には切磋琢磨しながら、日本の宇宙産業を盛り上げていけるよう尽力して参りたいと考えています。

最後に、弊社事業に関係頂いている皆様方のこれまでのご支援、ご協力に改めて感謝申し上げますとともに、一日も早い新型コロナウイルスの感染収束 (そして終息) を祈念申し上げます。